



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

年間第2主日 C年 (2022年1月16日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：イザヤ書 62章1－5節

第二朗読：コリントの信徒への手紙一 12章4－11節

福音朗読：ヨハネによる福音書 2章1－11節

## たまもの 賜物をあたえる方

三つの朗読から

第一朗読の「あなたの神はあなたを喜びとされる」は印象的です。先週の福音の最後にあった「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」(ルカ3章22節)がここでも響いています。「適う」には喜びの意味がありました。神から愛された子は、神にとっての喜びなのです。

第二朗読にある「霊は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださるのです」(11節)を味わいましょう。特別な恵みも、務め(フランシスコ会訳は「奉仕」)も、働きも、すべて神さまに由来していることがわかります。5節のフランシスコ会訳は「奉仕にはいろいろの種類がありますが、仕えるのは同じ主に対してです。」となっています。

神さまからの賜物、特別な恵みは、一人ひとりに応じて分け与えられます。

今日の福音朗読は『ルカによる福音書』が読まれるはずの朗読配分C年にもかかわらず、『ヨハネによる福音書』から読まれています。実は、年間第2主日は、伝統的に『ヨハネによる福音書』のカナの婚礼の箇所と、他に同じ福音書からの二つの箇所が読まれることになっています。(A年は1章29－34節、B年は1章35－42節)。これは、ヨルダン川で洗礼をお受けになられた「神から愛された神の子イエス」が、さらにどういった方であるかを他の人々の証言(証し)から明らかにする意図があります。また、イエスさまとの交わりの様子も証言(証し)されます。ですから、年間第2主日は「証し」の主日といえるでしょう。

福音朗読の最後の言葉、「それで、弟子たちはイエスを信じた」(11節)を心に留めたいものです。「しるし」というものは何かを指し示しめしています。イエスさまがなさったしるしも何かをわたしたちに示します。そのしるしを見て、触れて、わたしたちはイエスさまがどなたであるかが分かるのです。



「カナの婚礼」 ジョット・ディ・ボンドーネ (スクロヴェーニ礼拝堂)

カナの村の婚礼に出席したイエスとマリア、使徒たち。ジョットは「カナの婚礼」を、前後の場面(「キリストの洗礼」「ラザロの復活」)に比べ、家庭的な室内の様子を穏やかな雰囲気表現しています。

ちなみに、ナザレからカナは約8km、徒歩2時間ほどの距離です。